

就任のご挨拶



外科部長
山口 真彦

本年1月より康生会武田病院の外科部長に就任いたしました山口真彦と申します。就任にあたり、ひと言ご挨拶させていただきます。

私は昭和57年京大卒で、外科入局後研修を経て、小澤先生の第二外科に帰学し、学位取得後は熊田先生の昭和大学藤が丘病院外科に8年間、さらに獨協医科大学越谷病院外科に10年間勤務し、約20年ぶりに帰京して武田病院に勤務することになりました。

関東での20年間は殆ど私立大学病院の臨床業務に終始し、医療連携の促進、医療業績の向上や患者さん対応など、開業しておられる医院、病院を巡っては患者さんの御紹介をお願いし、患者さんに寄り添って外科の医療業績向上を図って参りました。ここ京都においても同様に地域医療を担っておられる貴先生方を訪問して連携を密にし、一人でも多く患者さんをご紹介いただき、逆紹介も含めた地域医療の円滑化、一体化が図れるよう微力ではありますが、努力していきたいと思っております。何卒よろしくお願い申し上げます。

武田病院地域医療連携室が移設しました

平成27年11月より、地域医療連携室が1階総合案内窓口の左横に移動いたしました。

相談窓口を外来受付カウンターに新たに設けており、患者さんやご家族・ケアマネージャーなどから、療養中の不安や悩み・転院相談・在宅療養相談・福祉相談・医療費の相談などMSWを中心に対応させていただいております。

地域の医療機関(病院・診療所)よりご紹介いただいた患者さんを通じて、地域の先生方と連携を密にし、患者さんに適した医療を効率的に提供できるよう努力しております。

診療予約・検査予約も地域医療連携室にて対応させていただきます。

地域医療連携だより
地域医療支援病院
医療法人財団 康生会 武田病院 発行
京都市下京区塩小路通西洞東入東塩小路町 841-5 TEL: 075-361-1351(代表)

受付時間

月曜日～金曜日 8:30～19:00 土曜日 8:30～17:00

※日曜日・祝日・祭日・年末年始はお休みさせていただきます。

医療機関専用

TEL (075) 361-1352 (直通)

FAX (075) 361-1337 (直通)

※地域医療連携室受付時間外につきましては医事部(医療事務)にて対応させていただきます。

TEL (075) 361-1351 (代表) FAX (075)-361-1268 (医事部専用)



呼吸器外科部長
竹中 一正

呼吸器外科では、肺・縦隔の疾患を中心に手術治療を行っております。

近年増加傾向にある肺癌に関しては、可能な限り低侵襲な胸腔鏡下手術を行っています。それにより入院期間の短縮、早期の社会復帰を目指しています。また呼吸器内科との密な連携により、診断から手術までの期間をできるだけ短くし患者さんの不安を軽減するよう努めています。また肺癌治療に関しては、呼吸器内科と合同で、術前もしくは術後に抗癌剤治療や分子標的治療などの内科的治療を併用する集学的治療を取り入れています。良性疾患のなかでも自然気胸に対しては、新たな工夫を取り入れ、より再発の少ない手術を目指しています。

当科では、外科や心臓血管外科など他科との連携により、臓器の垣根を超えた協力体制を整え、地域の病医院の皆様からの期待にそえるよう努力していく所存であります。今後ともどうぞよろしくお願いたします。



康生会 武田病院

2016年 春号

地域医療連携室だより



心臓血管外科特集



心臓血管外科部長
朴 昌禧

この平成28年1月より康生会武田病院に復帰いたしました。質と結果にこだわった手術をさせていただき、患者さんの「健康寿命」の延長に少しでも貢献したいと考えておりますので、前回在任中同様、これからもよろしくお願いいたします。

今回の地域医療連携室だよりでは、当科の治療方針と実績を簡単に説明させていただきます。

心臓血管外科は、多職種によるチーム医療で
私たちがサポートします！



理念

- ・思いやりの心
- ・地域社会の信頼
- ・職員相互の信頼

基本方針

- ・ブリッジ・ザ・ギャップス
- ・患者さんの権利尊重
- ・信頼の医療に向けて
- ・地球にやさしい環境づくり

環境方針

- ・省資源・省エネルギーの推進
- ・廃棄物の3R
(減らす、再利用、再資源化)の推進
- ・安全性・快適性の推進
- ・環境広報活動の推進

心臓血管外科 週間診療案内

★印：初診・予約のない再診・急患の方も受付ています

	月	火	水	木	金	土
AM	【手術日】	★朴 昌禧 部長	【手術日】		【手術日】	多職種 カンファレンス
PM	【手術日】	★14~16 武田 崇秀 医長	【手術日】	★14~16 朴 昌禧 部長 (心外・心臓大血管 ・静脈瘤初診外来)	【手術日】	



心臓血管外科部長 朴 昌禧

卒大 / 卒年・山口大学 昭和 59 年
 ・心臓血管外科・日本胸部外科学会指導医
 ・心臓血管外科専門医・日本外科学会専門医
 ・心臓血管外科修練指導医

I. 虚血性心疾患

最近では、糖尿病や慢性腎不全に伴う重症の冠動脈疾患が増加し、症例によっては人工心肺を用いない冠動脈バイパスも施行していますが、心拍動下では冠動脈吻合の質が低下するとのデータが欧米では出てきています。そのため、当院では質の高い冠動脈吻合と遠隔期におけるバイパスの高い開存性を目指し、人工心肺を用いた冠動脈バイパス術を基本としています。

II. 弁膜症

高齢の方、特に80歳以上の方の大動脈弁狭窄症に対する手術が増加していますが、全例が術後元気に退院されています。年齢の数字よりも、生活が自立されておられれば、90歳以上でも手術は可能と考えています。また僧帽弁閉鎖不全症につきましては積極的に弁形成術を行い、僧帽弁閉鎖不全症単独の場合には全例に形成術を完遂できています。

III. 末梢血管の動脈硬化性病変

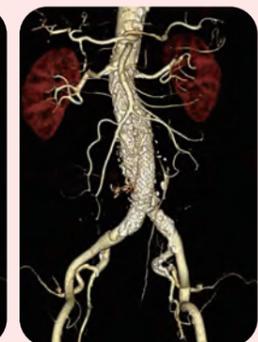
末梢血管の動脈硬化に伴う重症下肢虚血症例も増加傾向ありますが、循環器内科と密に連携し血管内治療を組み合わせた最善の治療を選択しています。

腹部大動脈瘤のステント治療を開始しました

IV. 大動脈瘤

胸部大動脈瘤の場合、当院では半分以上が急性大動脈解離の症例です。通常急性大動脈解離の手術での死亡率は10-20%前後と高率ですが、この5年間は私が手術させていただいた患者さんに手術の死亡は認めていません。特に急性大動脈解離の場合は緊急手術を要する場合がほとんどですが、当院では、心臓血管外科および臨床工学技士が毎日当直しており、24時間手術ができる体制を整えています。

腹部大動脈瘤につきましては、当院でもステント治療が可能となりました。もちろん開腹手術は術後長期の成績も安定しており、開腹での手術を当科の基本方針としておりますが、全身状態が不安定な患者さんにはステント治療が非常に有効な手段と考えています。



ステント治療前

ステント治療後

武田病院 外来棟新築 6月オープンに向け工事の安全を祈願

2月18日大安、一粒万倍日の日に、病院西隣の建築予定地で「康生会武田病院 外来棟新築工事」の安全を祈願を行いました。

当グループからは武田隆男会長、武田隆久理事長、武田道子副理事長、武田隆司専務理事ほか11名、また工事関係8名の方が出席し工事の無事を祈りました。

外来棟は内視鏡センターや外来化学療法室、診察室を拡張整備し、外来診療機能を充実させることで、さらに患者さんに安心の医療とゆとりある環境で受診して頂きたいと考えています。5月の完成、6月のオープンの予定です。

施主挨拶で専務理事は、「外来棟の新築は、これから始まる地域医療構想へのさきがけとなるもの」と語り、武田病院の今後の診療体制の充実と飛躍する将来像を示しました。

